第8講

社会科学系（1）

人が働く意味

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　なぜ人は働くのだろう。

2　まず，ここから始めよう。そのことを考えるときに，現在につながる働き方はいつから始まったのかを探ることが大きなヒントになる。

3　きっかけは一八世紀のイギリスの産業革命だった。蒸気機関の発明が，大勢の人を工場という同じ場所で同時に働かせることを可能にしたからだ。このとき，人間を労働力として使うことが，神を前にどのような理由で正当化されるのかということが問題となった。なぜなのか。

4　唯一絶対神を置くキリスト教は，人間と神との関係が永遠に続くものと考えている。それは生や死によって途絶えるものではない。神に対して原罪を犯してしまったがゆえにエデンの園を追放された人間は，「働くこと」を通じて，再び神との関係を取りもどそうとする。すべてのものは神が所有しているから，人間はそれを借用して生きなければならないのだ。そうすることで，神とのつながりを確認できる。

［中略］

5　たとえば，自らの手で土地を耕し，農作物を育て上げるという日々の営みが，神との関係を取りもどすことにつながる。だからこそ，その土地を離れ，意志とは無関係に，工場で単純作業を繰り返すようになれば，神との関係を取りもどすための手だてを失ってしまう。それが大きな問題だととらえられたのである。

6　キリスト教世界観のなかで生きる欧米人にとって，宗教

と現実が同じ地平にあることは不思議なことではない。日本人には違和感があるかもしれない。しかし，死は誰にとっても避けることができない。死を意識しないで現実を生きられる人はいないはずだ。その生と死と同じ地平に，なぜ働くのかという問題がある。そのことは日本人にとっても変わらないことだろう。

⑦ 言い換えれば，なぜ働くのかという問いかけは，「死んだらどうなるのか」ということや「どのように生きるべきか」ということと向きあうことでもあるのだ。生きている限り誰もこの問題から逃れることはできない。そのことを意識しつつ，人間は社会をつくり，そこで働き，経済活動を営んできた。

［中略］

⑧ 一九世紀のデンマークの童話作家，アンデルセンが書いた有名な物語に「人魚姫」がある。

⑨ この話を「王子に恋をした人魚姫が夢破れて泡になった話」と思っていないだろうか。そうだとすれば大きな誤解だ。

⑩ ほんとうはこんな話だ。

⑪ 人魚姫は，王子に出会う前から海の底で人間について聞かされていた。

⑫ 「人間には不滅の魂というものがあるらしい」

⑬ 人魚の寿命は三〇〇年だけれど，死んだ後には何も残らないという。すべて消えてしまうのだ。人魚姫は不滅の魂を持つという人間に憧れずにはいられなかった。そんな想いを抱く人魚はほかにはいなかった。

⑭ そんなとき人魚姫は王子の存在を知り，恋をする。

⑮ 「もしも王子の愛を手にすることができれば，ほんとうの人間になることができる」

⑯ そんな魔女の言葉は，人間になって不滅の魂を手にしたいと願う人魚姫の心に突き刺さった。だから，人魚姫は声を失っても，新しく手に入れた足に激しい痛みを感じても，王子の愛を手に入れようとしたのだ。しかし，その願いは叶わなかった。王子は人間の女性を愛するようになったからだ。

⑰ 魔女は人魚姫の姉たちに，「王子を殺せば人魚にもどることができる」という言葉を授けた。けれども人魚姫は違う道を選んだ。海に身を投げて泡となったのだ。

⑱ アンデルセンが書いた物語はここで終わらない。

⑲ どこまでも不滅の魂を求めた人魚姫は，そこに至る階段を一つのぼることを許された。人魚姫は「空気の精」になっ

生徒メモ欄

生徒メモ欄

たのである。そうして，「病気を起こす南の国のよどんだ空気を冷たい風で送り出してきれいにする」という「仕事」が与えられた。その期間は，人魚の寿命と同じ三〇〇年間。遠い道のりだけれど，その仕事を続けていれば，いつか不滅の魂にたどり着くことができる。

20 そんな物語だ。

21 一九世紀といえばそんな大昔ではない。多くの人が労働力を賃金に引き換えて工場で働くようになった産業革命のまっただ中だ。その働き方は現代にまでつながっている。そうした時代に，アンデルセンは「仕事」をし続けることで不滅の魂を手に入れる，つまりは人間と神との関係を紡ぎ直すストーリーを描いたのである。

22 工場で働いていれば，それが人間と神との関係を紡ぎ直すことになるのか。言い換えれば，キリスト教世界観のなかで「なんのために生きるのか」という問いかけへの答えが得られることになるのだろうか。産業革命が起きた一九世紀という時代を考えれば，「人魚姫」の物語にはそうした意味が込められている。

［中略］

23 イギリスで一八世紀に始まった産業革命により，人間は蒸気機関で機械化された工場で働くようになった。

24 工場は，一人ひとりの作業を機械に合わせて細かく分けることで，安く大量に製品をつくりだすことに成功した。それは，一人ひとりが自分の関わった仕事の成果がどのようなものであるのか実感することを難しくさせるものだった。このような働き方は，神との関係のなかで「働くこと」をとらえるというストーリーを，根底から覆すものだった。自分がなにかを成し遂げたという実感がなければ，神との関係を紡ぎ直すことができなくなってしまうからだ。

25 「テーブルをつくる」ことを例にとって考えてみよう。

26 作業には，テーブルの脚や天板の加工，塗装の下処理，上塗り，部品の組み付けといった工程がある。産業革命が起きる前は一人が広い範囲の作業に関わっていた。だから，できあがった製品には，自分がつくったという実感があった。

27 しかし，産業革命が起きたことで，その様子が一変した。木を正確に切り出したり，穴をあけたりという作業を，蒸気機関が人間の代わりにするようになったからだ。一人の作業者が関わることができる範囲が狭まってしまい，できあ

がった製品を自分がつくったという実感がなくなる。その見返りとして，働く側は決まった仕事だけをして，その仕事にみあった対価を得るだけになった。

28　それだけではない。対価として得られる賃金がなにを基準にして決められるのか，働く側にはわかりにくいということも問題だった。製品をつくりすぎた場合，価格を下げなければ，つくった分を買ってもらえなくなる。そのときに，経営者は働いている人の賃金を下げることで価格を調整しようとした。経営者に対する働く側の力関係が弱かったこと，そして，賃金の支払い基準がはっきりしていなかったことで，経営者側が自由に賃金を上げ下げできた。そのとき，働いている人がどうやって生活しているのかということは，ほとんど考慮されなかった。

29　だから，働いているという実感を取りもどす，賃金が経営者により恣意的に下げられないようにする，この二つが工場で働く人にとって目指すところになった。それが経営者側の利益と相反したことで，働く側は経営者側に抵抗するようになったのだ。

30　それに対して，経営者は職長という監督者を職場に配置することで対処しようとした。彼らには，誰かを雇ったり，賃金の良いポストにつけたり，クビにしたり，という権限を与えた。職長はその力によって，目標通りに作業するように働く人を駆りたてたのだ。働く側は，機械を壊したり，作業にかける時間を意図的に遅くしたり，仕事を辞めるといった方法で抵抗した。けれども，人間から「働く」実感が失われていくという流れは止まらなかった。

（山崎憲『「働くこと」を問い直す』による）

（立教大学　社会学部　2017）

生徒メモ欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

この文章をふまえたうえで，「なぜ人は働くのか」について，あなたの考えを述べなさい（800字以内）

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

500

600

700

800

（　　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

　課題文によると、産業革命以前のものつくりは、単身で広い範囲の工程を作業して達成感を得られるものだった。それ以降は、ものつくりの工程に一人の作業者が関わる範囲が狭まったことで、自分が作りあげたという働き手の達成感は実感しにくくなる。このことから私は「なぜ人は働くのか」という問いに対し「今を生きていくため」と答えたい。働くことの意義を、働く側がどこに持って行くのかが重要であり、個人単位での達成感を得るということについては仕事以外で求めることも必要ではないかとも考える。

　私は中学の時から父にパソコンを教わり、ネットワークの仕組みやプログラミングを学んできた。ＩＴ技術は必須と、いち早く社会貢献できるように知識を教えこまれてきたと言える。一方で母は、私が幼い時から鞄、セーター等を手作りしていた。私の描いた絵を布に写し、一生残せるようにと、刺繍をして台所ののれんにした。私も自分で布を選び、図書館で本を借りて一から作るなど裁縫が好きになり、今では布マスクも作っている。

　裁縫に没頭できる時間は充実し、続けていきたいという思いは強い。しかし、これを生業として、個人で続けることは困難である。布マスクを友達にあげたとき、手間に合う金額を示すと途端に「お店の方が安い」「マスクなのに」という目で見られ、商売として手仕事を成立させる難しさを学んだからだ。

　現代を生きていくためには、一定の安定し

た収入が必要で、生きていく限り一生必要となる。働くことは、暮らしていくお金のためと割り切るのは味気ない考え方と思えるが、そこで得た収入を自分の趣味に使うことで達成感を得ることは可能である。私であれば購入する布の質やミシンのグレードを上げよりよい物を作る創作意欲につながる。仕事はあくまで「仕事」であると割り切り、働いて得た報酬を自分がどう活かしていくのかが重要であると、私は考える。

(791字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

　働く理由は、究極のところ「生きるため」が第一だろう。そして現代のそれにつながる答えを考えると、心理学の欲求段階で説明することができる。生きるために働くのは生理的安全の欲求を満たすことであり、生きるに足る収入を得ている者は、更に社会的、承認、自己実現の欲求を求めていくと考えられる。

　キリスト教の世界観に生きる人と、心理学的欲求段階を同じく述べるのが適当かは分からないが、神との関係を紡いでいる実感を求めているのであれば、人は成果を通して他者から承認を得たい、そこから派生する自己承認欲求を持っていると言えるだろう。自分の価値観や人生観に基づいて、あるべき自分になりたいと思う自己実現欲求は、キリスト教世界観における問いかけの答えに通ずるものがある。その働く理由の確認に重要である働く実感が失われていく流れが加速している。

　人から働いている実感を奪っているのは、情報技術革命だろう。単純労働は機械により自動化され、足を使った調査や創意も経験を生かした思考を踏まえたビッグデータの解析や人工知能に任せられる。個人が発信した評価から一夜に財を築くことも可能となった。しかし、その逆もまた然りであることも否めない。汗水流し人が動くことと、成果との結びつきが一層見えにくくなっている。収入が本人の求める生き方に足りていない時、労働時間の多少が欲求段階に見合っていない時、その人の働く理由は揺らぎ始める。

　今の時代に働く理由を見出すには、実感したい成果を個々が選び決めることが大切だ。目的達成に成果を求める者、収入による生活充足に成果を感じる者、各々が働く理由に応じて時間、望む収入、働く場所を選ぶのである。近年の働き方改革は、働く理由を変える改革になる。働かせる理由を追求する経営者はふるい落とされ、今後は労働者に働く理由を与える姿勢が求められるようになるのではないだろうか。

(787字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄